



Title	Effects of Tactile Massage on Mothers of Children with Autism Spectrum Disorder: A Pilot Study
Author(s)	上原, 佳子
Citation	大阪大学, 2017, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67076
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏 名 (上 原 佳 子)

論文題名

Effects of Tactile Massage on Mothers of Children with Autism Spectrum Disorder: A Pilot Study
(自閉スペクトラム症児の母親へのタクティールマッサージの効果に関する予備的研究)

論文内容の要旨

<目的>

補完代替療法のタクティールマッサージは、皮膚を撫でる刺激により、オキシトシン濃度が増加し、コルチゾール濃度が低下することが報告されており、これらがストレス緩和効果に関連することが考えられている (Uvnäs-moberg, 2000)。自閉スペクトラム症 (ASD) 児の母親は、児の行動障害への対応や養育へのストレスから日常生活に支障をきたす場合があり (Matsuoka et al., 2013; Estes et al., 2009), その支援において児の症状改善とともに養育者のストレス緩和とQOL向上への支援が必要である。これまでASD児の養育者のストレス緩和に向けて、タクティールマッサージを含めた補完代替療法の介入研究はされていない。そこで本研究では、ASD児の母親へのタクティールマッサージのストレス緩和の効果を、生理的・心理的指標により検証することを目的とした。

<方法>

1. 参加者：A県内の学齢期までのASD児 (7.8±4.2歳, 男児15名女児2名) の母親17名 (39.1±5.3歳)。
2. 実験期間：2013年6月～2014年3月
3. 実験手続き：同一参加者に対して、一定条件下の実験室で、手へのタクティールマッサージを実施する[タクティール]条件と、タクティールマッサージを実施せずに安静座位を保つ[安静]条件を、それぞれ20分間、連続した別日に行った。[タクティール]と[安静]条件の実施開始は同一参加者に対し同一時刻に設定した。実施前後に唾液採取、心拍測定、質問紙記入を行った。[タクティール]と[安静]の順番は参加者によってランダムとした。タクティールマッサージの手技を一定に保つため、日本でタクティールマッサージの普及を行っている日本スウェーデン福祉研究所の認定を取得した研究者1名が全参加者のタクティールマッサージを実施した。
4. 測定項目：1)生理的指標 (1)内分泌系指標：唾液中コルチゾール(s-col), 唾液分泌型免疫グロブリンA(s-IgA) (2)自律神経系指標：心拍変動周波数解析 HF, LF/HF 2)心理的指標 (1)気分：気分プロフィール調査票(POMS)短縮版 (2)不安：新版状態－特性不安検査(STAI)
5. データ分析：[タクティール][安静]条件それぞれの実施前後の比較、[タクティール]と[安静]条件間での実施前後の変化率の比較を、Wilcoxon符号付順位検定にて行った。
6. 倫理的配慮：対象者に研究の趣旨と倫理的配慮を口頭と文書で説明、同意書への記載にて研究への同意とした。実験は福井大学医学部倫理審査委員会および福井大学利益相反審査委員会の承認を得て実施した。

<結果・考察>

内分泌系指標では、実施前後の比較で[タクティール][安静]条件ともs-colは有意に低下、s-IgAは有意に増加、変化率で両指標とも条件間で有意差はなかったことから、[タクティール][安静]ともストレス反応を緩和させると考えられる。自律神経系指標では、実施前後の比較でHFは[タクティール]で有意に増加、[安静]で有意な変化はなく、LF/HFは[タクティール][安静]とも有意な変化はなかったことから、タクティールマッサージは副交感神経活動を亢進させることが考えられる。気分(POMS)の標準化得点では、実施前後の比較で [タクティール]でネガティブ項目5項目、[安静]では3項目で有意に低下し、変化率では5項目中4項目で[タクティール]が[安静]より有意に高かったことから、タクティールマッサージではネガティブな気分をより低下させることが考えられる。状態不安得点(STAI)では実施前後の比較で[安静][タクティール]とも有意な低下がみられ、変化率で[タクティール]が[安静]より有意に高かったことから、タクティールケアの実施はより不安を軽減させることが考えられる。

<結論>

ASD児の母親へのタクティールマッサージの効果は以下の通りである。副交感神経系を亢進させるが、内分泌系のストレス反応ではその緩和効果は安静座位と変わらない。心理的には、安静座位よりも不安の軽減と一部のネガティブな気分の改善に有効である。

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 (上 原 佳 子)			
論文審査担当者	(職) 氏 名		
	主 査	教授	小坂 浩隆
	副 査	教授	友田 明美
	副 査	准教授	酒井 佐枝子

論文審査の結果の要旨

1. 論文内容の要旨

<目的>

補完代替療法のタクティールマッサージは、皮膚を撫でる刺激により、オキシトシン濃度が増加し、コルチゾール濃度が低下することが報告されており、これらがストレス緩和効果に関連することが考えられている（Uvnäs-moberg, 2000）。自閉スペクトラム症（ASD）児の母親は、児の行動障害への対応や養育へのストレスから日常生活に支障をきたす場合があり（Matsuoka et al., 2013 ; Estes et al., 2009），その支援において児の症状改善とともに養育者のストレス緩和とQOL向上への支援が必要である。これまでASD児の養育者のストレス緩和に向けて、タクティールマッサージを含めた補完代替療法の介入研究はされていない。そこで本研究では、ASD児の母親へのタクティールマッサージのストレス緩和の効果を、生理的・心理的指標により検証することを目的とした。

<方法>

1. 参加者：A県内の学齢期までのASD児（7.8±4.2歳，男児15名女児2名）の母親17名（39.1±5.3歳）。
2. 実験期間：2013年6月～2014年3月
3. 実験手続き：同一参加者に対して、一定条件下の実験室で、手へのタクティールマッサージを実施する[タクティール]条件と、タクティールマッサージを実施せずに安静座位を保つ[安静]条件を、それぞれ20分間、連続した別日に行った。[タクティール]と[安静]条件の実施開始は同一参加者に対し同一時刻に設定した。実施前後に唾液採取、心拍測定、質問紙記入を行った。[タクティール]と[安静]の順番は参加者によってランダムとした。タクティールマッサージの手技を一定に保つため、日本でタクティールマッサージの普及を行っている日本スウェーデン福祉研究所の認定を取得した研究者1名が全参加者のタクティールマッサージを実施した。
4. 測定項目：1)生理的指標 (1)内分泌系指標：唾液中コルチゾール(s-col)，唾液分泌型免疫グロブリンA(s-IgA) (2)自律神経系指標：心拍変動周波数解析 HF，LF/HF 2)心理的指標 (1)気分：気分プロフィール調査票(POMS)短縮版 (2)不安：新版状態－特性不安検査(STAI)
5. データ分析：[タクティール][安静]条件それぞれの実施前後の比較，[タクティール]と[安静]条件間での実施前後の変化率の比較を，Wilcoxon符号付順位検定にて行った。
6. 倫理的配慮：対象者に研究の趣旨と倫理的配慮を口頭と文書で説明，同意書への記載にて研究への同意とした。実験は福井大学医学部倫理審査委員会および福井大学利益相反審査委員会の承認を得て実施した。

<結果・考察>

内分泌系指標では、実施前後の比較で[タクティール][安静]条件ともs-colは有意に低下，s-IgAは有意に増加，変化率で両指標とも条件間で有意差はなかったことから，[タクティール][安静]ともストレス反応を緩和させると考えられる。自律神経系指標では、実施前後の比較でHFは[タクティール]で有意に増加，[安静]で有意な変化はなく，LF/HFは[タクティール][安静]とも有意な変化はなかったことから，タクティールマッサージは副交感神経活動を亢進させることが考えられる。気分(POMS)の標準化得点では、実施前後の比較で [タクティール]でネガティブ項目5項目，[安静]では3項目で有意に低下し，変化率では5項目中4項目で[タクティール]が[安静]より有意に高かったことから，タクティールマッサージではネガティブな気分をより低下させることが考えられる。状態不安得点(STAI)では実施前後の比較で[安静][タクティール]とも有意な低下がみられ，変化率で[タクティール]が[安静]より有意に高かったことから，タク

ティールケアの実施はより不安を軽減させることが考えられる。

＜結論＞

ASD児の母親へのタクティールマッサージの効果は以下の通りである。副交感神経系を亢進させるが、内分泌系のストレス反応ではその緩和効果は安静座位と変わらない。心理的には、安静座位よりも不安の軽減と一部のネガティブな気分の改善に有効である。

2. 論文審査の結果

上記の者から提出された論文を審査し、且つ最終試験を行った結果、博士（小児発達学）の学位を授与する価値があると認定した。